

帰国研修員の活動視察のため、ネパールを訪問しました

2014年12月、JICA 筑波研修業務の一環として、帰国研修員の活動視察のためにネパールを訪問しました。視察対象としたのは2002～2014年にJICA 筑波野菜栽培技術関連コースに参加した12名の帰国研修員で、全員が農業改良普及所(District Agriculture Development Office)に勤務する普及員でした。10日間の滞在中、3名の活動現場を訪問し、10名の研修員にインタビューをすることが出来ました。

帰国研修員からは様々な工夫をしながら本邦研修を活用している事例が示され、日本の栽培技術がネパールでも適応可能だということが確認できました。特に同国で需要が高まっている雨よけトマトの栽培管理技術やF1トマトの採種技術が現場で役立っているとのことでした。また「本邦研修で多品目の野菜栽培の経験を積んだことにより、自信を持って農家に接することが出来るようになった」という意見を異口同音に聞くことが出来ました。こういった農業技術普及員としての資質の向上は、実習を主体とした技術習得コースの有意性と思われれます。加えて「以前より積極的に業務に取り組めるようになった」「分からないことをどう学べばよいかを知った(I learned how to learn)」など、業務に対する姿勢の変化も確認できました。個人の内面性まで影響を与えることが出来たのは、日本で日本人と共に実施する本邦研修ならではの効果であると思われれます。我々国際耕種では9ヶ月という研修期間内で、一人ひとりの研修員と向き合い、理論と実践がリンクする指導を意識して実施しています。今回の視察では、その成果を肌で感じる事が出来ました。

今後は、彼らが習得した知識や技術を如何に同僚や農家に普及していくかが焦点となってきます。調査中に実施したグループ討議では、帰国研修員が小規模プロジェクトチームを作って研修会などを実施する案などが出ました。これまで受け入れてきたネパールの研修員はみな優秀な方々でした。彼の今後のさらなる活躍を、国際耕種としても応援していきたいと思えます。



農家調査中のスディール氏(2010年本邦研修)



トマト原種採種母本とアルン氏(2010年本邦研修)



市場調査をするサンデッシュ氏(2011年本邦研修)



トマトの栽培指導をするアジャヤ氏(2012年本邦研修)



グループ討議には8名の帰国研修員が参加しました。



討議で各々の経験を共有し、今後の活動について話しました。